

ひとつとーど通信

2022年8月16日発行

233号

「ひとつとーど通信」は
略して「ひとつ」。
いつも読んでいれば
おりがとうございます。

どうぞ平川の通信は、お客様のごとにごとに通じて、ご主人とのお届けしています。当然ですが無料です。

ここにちは！平川です。連日の蒸し暑さに夏バテ気味の今日この頃ですが、お変わりありませんか？

私は先月コロナになりました。実は先月妻も一緒に熱はそれほどでもなかったのですが、なんせ喉が痛くて、三日間食事が取れず、水を飲むのも一苦労でした。おかげで、健康の有難みを再認識できました。どうか体調にお気をつけ下さい。

話変わって、八月と言えば、夏休み、海水浴、花火大会など楽しい月の反面、原爆の日、終戦記念日、お盆と言った、平和や命について考えるこの多い月もあります。セミの鳴き声を聞くと、残り短い命を一生懸命に生きていると時折切なくとも聞こえるのは、そのせいでしょうか。そんな訳で今回、命について書いてみますね。

では今月もはりきっていきましょう。

毎年この時期になると、ある方より教えていただいた言葉を思い出します。「親死ぬ、子死ぬ、孫死ぬ」。これは一休さんの言葉とも言わ

れています。こんなお話を、ある町の庄屋さんに、とても可愛いい孫が生まれました。たりそり喜んだ庄屋さんは、一休さんに何かでたい言葉を掛け軸に書いて欲しいとお願いしたところ、「一休さんは、親死ぬ、子死ぬ、孫死ぬ」と書きました。それを見た庄屋さん「なんと縁起でもない言葉だ、一家を皆殺しにするつもりか」と激怒しました。すると一休さん「親が死んで子供が死んで孫が死ぬ。順番通りに死ぬのが一番めでたい事なのです」と言われたそうです。

順番通りであれば家系は繁榮します。順番を間違えることほど、苦しく悲しいことはありません。言葉の意味を理解した庄屋さんは、大変喜んだそうです。

ではもう一つ。「下坐に生きる」本より一部抜粋します。鈴木さんは、病院のベッドで気づいたことを大学ノートに書き残されます。それは五冊にもなりました。しかし症状は回復せず、46

歳で亡くなります。その一トから死の直前に書かれた、ご主人とのことを詠んだ詞をご紹介します。

「お父さん、ありがとう。またあなたえるといいね」と手を振るテレビをみている顔をこちらに向けて、主人が「おかあさん、ありがとうございました。またあしたあえるといいね」と手を振ってくれる。今日一日のしあわせが胸いっぱいにあふれてくると、朝は「お父さんまたあえたね」お母さんまたあえたね、「お母さんまたあえたね」と恋人同士のような暮らしをしています。振り返ってみるとこの四十六年間、こんなあいさつを一度だけしたことがあったでしょうか。みんなガンをいただいて気づかされたことばかりです。私はこの詩に心打たれました。何度も読んでも目頭が熱くなります。鈴木さんにとってもはやガンは、生命を蝕む恐ろしい不治の病などではなく、掛けがえのないことを教えてくれたありがたいメッセージ、じゃーだつたのです。心が洗われるオーススメの本です。



下坐に生きる

■神渡良平著

帯に知らない番号から着信がある半年ほど前のことです。私の携

りました。声の雰囲気からして、ご高齢の女性でした。

「初めてまして、〇〇の家内です。いつも手紙を送って下さり、ありがとうございます。うござります」「あ、どうとーど通信のことですか?」「はい、そうですね。実は〇〇は、一年前より入院しておりまして、お手紙を印刷して病院へ持っていくと、いつも樂しそうに読みおりました。しかし先月亡くなりました」

10年前にお会いしたのが最後で、それっきりでした。電話を切った後に泣けてきました。人生に閑わらせていただき、ありがとうございました。

タイのCMをご紹介します。これが何度見ても涙がこみあげてくるんです。日本人が忘れてかけている何かがあります、これ小中学校でも流せばいいのに。

いますので、もしよろしければご覧下さい。

URLをメールに添付していただけます。

発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
専門学校＆スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ : <https://itorinri.com/>

ご感想や楽しいメッセージをお待ちしています。 E-mail: hirakawa@asam.jp FAX: 092-321-4002